# 応用解析 第2回 曲線と領域

## 1. n 乗根

[定理1] (指数関数  $e^{i\theta}$  の指数法則まとめ)

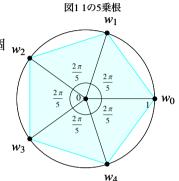
$$e^{i\theta}e^{i\tau} = e^{i(\theta+\tau)}, \ \frac{1}{e^{i\theta}} = e^{-i\theta} = \overline{e^{i\theta}}, \ \frac{e^{i\theta}}{e^{i\tau}} = e^{i(\theta-\tau)}, \ \left(e^{i\theta}\right)^n = e^{in\theta}.$$
 //

「例1] 複素数  $z=-1+i\sqrt{3}$  の累乗.  $z=-1+i\sqrt{3}=2e^{(2\pi/3)i}$  より、

$$z^{6} = 2^{6} e^{6(2\pi/3)i} = 2^{6} e^{4\pi i} = 2^{6} = 64. \ z^{-2} = 2^{-2} e^{-2(2\pi/3)i} = \frac{1}{4} \left( \cos \frac{4\pi}{3} - i \sin \frac{4\pi}{3} \right) = \frac{1}{8} (-1 + i\sqrt{3}). \ //$$

△ 単位円:原点中心, 半径1の円. 方程式は 2=1.

 $\triangle$  複素数  $\alpha$  の n 乗根  $\sqrt[q]{\alpha}$  : n 乗して  $\alpha$  になる複素数. 方程式  $z^n = \alpha$  の n 個  $w_2$  の解. n 個まとめて  $\sqrt[q]{\alpha}$  と書く.



「定理2] (1の n 乗根)  $\sqrt{1} = e^{2\pi i k/n}$  ( $0 \le k < n$ ).

(証明) 
$$\left(e^{2\pi i k/n}\right)^n = e^{2\pi i k} = 1$$
. また、これら $n$ 個の複素数

$$w_0 = e^0 = 1, w_1 = e^{2\pi i/n}, w_2 = e^{4\pi i/n}, \dots, w_{n-1} = e^{2\pi i(n-1)/n}$$

は単位円周上に、偏角  $2\pi/n$  間隔で等間隔に並ぶ(図1)、相異なる複素数である。ゆえに、これらは方程式  $z^n=1$  の n 個の解全体となっている。//

☆ 1の n 乗根は単位円周の内接 n 角形の頂点. 円周上に点1から偏角 2π/n 間隔で等間隔に並ぶ(図1). //

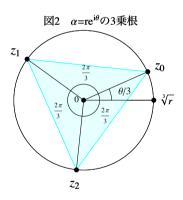
[定理3] (複素数  $\alpha$  の n 乗根)  $\alpha = re^{i\theta}$  と極表示して,

$$\sqrt[n]{\alpha} = \sqrt[n]{r}e^{(\theta + 2\pi k)i/n} \quad (0 \le k < n)$$
. //

(証明) 
$$\left(\sqrt[n]{r}e^{(\theta+2\pi k)i/n}\right)^n = re^{(\theta+2\pi k)i} = \alpha$$
. また、これら  $n$  個の複素数

$$z_0 = \sqrt[n]{r} e^{i\theta/n}, z_1 = \sqrt[n]{r} e^{i\theta/n + 2\pi i/n}, \cdots, z_{n-1} = \sqrt[n]{r} e^{i\theta/n + 2\pi i(n-1)/n}$$

は中心0で半径 $\sqrt{r}$  の円周上に,偏角  $2\pi/n$  間隔で等間隔に並ぶ(図2),相異なる複素数である.ゆえに,これらは方程式  $z^n=\alpha$  のn 個の解全体となっている.//

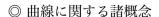


riangle lpha の n 乗根は中心0で半径  $\sqrt[q]{r}$  の円の内接 n 角形の頂点.円周上に,点  $\sqrt[q]{lpha} = \sqrt[q]{r}e^{i heta/n}$  から偏角  $2\pi/n$  間隔 で等間隔に並ぶ(図2).//

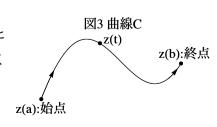
### 2. 複素平面上の曲線

複素平面上で、向きの付いた曲線と、それらの集合としての和を「曲線」という。

- ◎ 曲線の表現(z平面上)
- ・曲線 C: z = z(t)  $(t: a \rightarrow b): t$  は実変数, z(t) = x(t) + iy(t) は実部 x(t) と虚部 y(t) が連続な複素数値関数. C は t が a から b まで動いたときの点 z(t) = x(t) + iy(t) の軌跡. z(a) を始点, z(b) を終点という(図3).

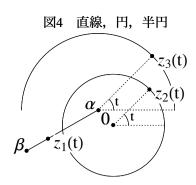


- △ 単純(単一)曲線:自分自身と交差しない曲線。
- △ 閉曲線:始点と終点が一致する曲線.



「例2〕線分、円と半円(図4)

- 1. 点 $\alpha$ ,  $\beta$  を結ぶ線分 $L:z=z_1(t)=\alpha+(\beta-\alpha)t$   $(t:0\to 1)$ .
- 2. 単位円(原点中心,半径1の円)  $C: z=z_2(t)=e^{it} \ (t:0\to 2\pi)$ . 単位円は閉曲線である.
- 3. 中心 $\alpha$ , 半径rの半円 $C_1: z = z_3(t) = \alpha + re^{it}$   $(t: 0 \to \pi)$ .



## 3. 複素平面上の領域

- ◎ 領域に関する諸概念
- $\triangle$   $\alpha \in \mathbb{C}$  の r 近傍:  $B(\alpha,r) = \{z \mid |z-\alpha| < r\}$ .  $\alpha$  を中心とする半径 r の円の内部である. 以下 D を複素数の集合, すなわち,  $D \subset \mathbb{C}$  とする.
- $\triangle$  Dの補集合  $D^c = \{z | z \in \mathbb{C}, z \notin D\}$ .
- $\triangle \alpha$  は D の内点  $\Leftrightarrow$  十分小さい r > 0 で  $B(\alpha,r) \subset D$ .
- $\triangle \alpha$  は D の外点  $\Leftrightarrow$  十分小さい r > 0 で  $B(\alpha,r) \subset D^c \Leftrightarrow \alpha$  は  $D^c$  の内点.
- $\triangle$   $\alpha$  は D の境界点  $\Leftrightarrow$  どんな小さい r > 0 でも  $B(\alpha,r) \cap D \neq \emptyset$  かつ  $B(\alpha,r) \cap D^c \neq \emptyset$ .
  - 注意:境界点 $\alpha$ 自身は $\alpha \in D$ のこともあり、 $\alpha \notin D$  ( $\alpha \in D^c$ ) のこともある.
- $\triangle$  D の境界  $\partial D = \{D$  の境界点全体}.
- $\triangle$  D は開集合  $\Leftrightarrow$  全ての  $\alpha \in D$  は D の内点.
- $\triangle$  D は閉集合  $\Leftrightarrow \partial D \subset D$ .
- $\triangle$  D は**弧状連結**  $\Leftrightarrow$  D の任意の2点は D に含まれる曲線で結ばれる.
- $\triangle$  D は領域  $\Leftrightarrow$  D は弧状連結な開集合.

### [例3] 代表的な複素数の集合

- ・  $D:|z-\alpha| < r$  は中心  $\alpha$  半径 r の開円板(領域). 境界  $\partial D:|z-\alpha| = r$ .
- ・  $D:|z-\alpha| \le r$  は中心  $\alpha$  半径 r の閉円板. 境界  $\partial D:|z-\alpha| = r$ .
- ・  $D:(|z-\alpha|-r_1)(|z-\alpha|-r_2)<0$ ,  $r_1< r_2$  は2円  $C_1:|z-\alpha|=r_1$ ,  $C_2:|z-\alpha|=r_2$  で挟まれた**円環領域**.
- ・ D: Re z < 0 は左半平面(領域), D: Re z > 0 は右半平面(領域),境界は共に虚軸  $\partial D: \text{Re} z = 0$  .
- ・  $D: \operatorname{Im} z < 0$  は下半平面(領域),  $D: \operatorname{Im} z > 0$  は上半平面(領域).境界は共に実軸  $\partial D: \operatorname{Im} z = 0$ .
- ・  $D:a \leq \text{Re} z \leq b, c \leq \text{Im} z \leq d$  は境界を含む長方形. 境界  $\partial D$  は長方形の周.
- ・  $D:a < \arg z < b$  は2本の動径  $L_1: \arg z = a$ ,  $L_2: \arg z = b$  で挟まれた角領域。  $\partial D = L_1 \cup L_2$ .

### 練習問題

教科書p.19演習問題より.

- 1.  $\alpha = 1 + i$  を極表示し、 $\alpha^{10}$  を求めよ.
- 2. (|z+i|-2)(|z-i|-2)<0 を満たすzの集合を図示し、それが領域かどうか判定せよ。

## 練習問題

- 1.  $\alpha = \sqrt{2}e^{\pi i/4}$ .  $\alpha^{10} = (\sqrt{2})^{10}e^{10\pi i/4} = 2^5e^{5\pi i/2} = 2^5e^{\pi i/2} = 32i$  (下左図).
- 2. (|z-i|-2)(|z+i|-2)<0 は  $(|z-i|<2\cap|z+i|>2)\cup(|z-i|>2\cap|z+i|<2)$  ゆえ,集合は下右図の開集合.

上半月部と下半月部は集合内部の曲線でつなげない。よって、この集合は弧状連結でないので領域ではない。2つの領域の和集合である。

